

九州芸文館

KYUSHU GEIBUN-KAN

福岡県立美術館コレクション展

# 人間ド ラマ ティ ック

2020年

4月18日|土|—5月17日|日|

10:00—17:00 (入場は 16:30 まで)

休館日：月曜日[ただし5月4日(月・祝)は開館、5月7日(木)は休館]

九州芸文館 教室工房1・2

観覧料：一般 210 円

※20名以上の団体については観覧料が170円になります

※高校生以下、65歳以上の方、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方およびその介助者、  
教職員引率による高校生以下および引率者は無料

主 催：九州芸文館美術展実行委員会

柳瀬正夢《波止場のI氏》1922年

# 「人」

は美術において、古くから扱われてきた主題の一つです。作家たちは人体が持つ造形美を追求し、あるときは人々の集いや日常を描き、またあるときは私たちのアイデンティティといった概念さえも作品にしてきました。その様相からは「人」が無限ともいべき広がりを持つ主題であることがうかがえます。また、作品の背後には作家の存在があります。彼らもそれぞれが「人」として歩んだ物語があり、それらを知ったうえで作品を鑑賞してみることも美術の醍醐味といえるでしょう。

本展覧会では「人」をテーマに、福岡県立美術館が所蔵する作品約40点をご紹介します。美術は人のかたちや社会のかたち、ときには人の根源的な欲求のかたちを私たちに示してくれるものです。人が形づくる様々なドラマに、作品を通じて迫ります。



中村琢二《黄いろいうちは持つ婦人像》1943年



安永良徳《1956年作品第21》1956年



松村三之《うみさち》1973年



梶原貴五《陽を受ける窓》1954年



上田宇三郎《裸婦》1955年



古賀春江《埋葬》1922年

## 関連イベント

### ワークショップ 「ドラマティックな自画像を描いてみよう」

着色された紙を使う有色地デッサンに挑戦してみましょう。鉛筆だけではなく、消しゴムや白色鉛筆なども使って、光と影をドラマティックに表現します。初心者の方も大歓迎です。



参考作品

講師 渡抜 亮(九州産業大学芸術学部 講師)  
日時 4月26日(日)13:30~16:00  
会場 教室工房3・4  
定員 16名(要申込・先着順)  
対象 中学生~大人

参加無料  
申込方法 電話(九州芸文館 0942-52-6435)もしくはホームページ「申込フォーム」よりご応募ください。

持参物 特にありませんが、使い慣れた鉛筆デッサンの道具があればお持ち込みいただけます。

### アクロス・ ミュージアムコンサート

出演 高山 大知(ハンドフルード)、宮嶋 望美(ピアノ)  
日時 5月10日(日)  
第1部 13:30~  
第2部 15:00~  
(各回約30分)  
主催 (公財)アクロス福岡  
九州芸文館美術展実行委員会  
申込不要 / 参加無料(先着順)



### 学芸員による ギャラリートーク

学芸員が展覧会の鑑賞ポイントをお話します。

日時 4月18日(土)、  
5月16日(土)  
13:30~14:00

申込不要 / 参加無料  
(※ただし本展観覧券が必要です)



新型コロナウイルス感染症の感染とその拡大防止のため、会期を変更、または関連イベントを中止する場合があります。最新情報は展覧会ホームページもしくは Facebook(「九州芸文館美術展実行委員会」で検索)をご確認ください。

### 交通案内

- 【JR利用】九州新幹線「筑後船小屋」(博多から約25分)下車、徒歩約1分  
JR 鹿児島本線「筑後船小屋」(博多から快速で約50分)下車、徒歩約1分
- 【バス利用】西鉄バス50番(久留米 - 船小屋)「筑後船小屋駅前」バス停下車、徒歩約1分
- 【高速道利用】九州自動車道「八女IC」から約10分、「みやま柳川IC」から約15分
- 【駐車場】103台(2時間まで無料 / 以降1時間100円)  
※駐車場には台数に限りがございますので、できる限り公共交通機関でお越しください。

九州芸文館 〒833-0015 福岡県筑後市大字津島1131

TEL: 0942-52-6435 <http://www.kyushu-geibun.jp>



Uni-Voice  
このマークは、目が不自由な人などが使う音声コードです。

